

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	409360023
法人名	有限会社 プラス
事業所名	余香庵
所在地	福岡県古賀市今の庄1丁目2-12 (電話)092-940-1722

評価機関名	特定非営利活動法人 ヘルスアンドライツサポートうりずん		
所在地	福岡県直方市古知1丁目6番48号		
訪問調査日	平成21年12月8日	評価確定日	平成21年12月18日

【情報提供項目より】(平成21年 12 月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 20 年 12 月 8 日		
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8.4 人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	2 階建ての	1 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

宿泊費(1泊)	3,000 円程度			
食材料費	朝食	525 円	昼食	630 円
	夕食	630 円	おやつ	円
その他日常生活において必要な費用	1日につき、およそ 円 ~ 円程度			

(4)登録者の概要

登録人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	2	要介護2			
要介護3	4	要介護4			
要介護5					
要支援1	1	要支援2		1	
年齢	平均 81 歳	最低	61 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	豊資会加野病院 豊資会やまびこ診療所 坂井歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ご利用様・ご家族・地域の方々・スタッフも含め、気軽に寄り合う」よこういきんしゃい」との理念を掲げた余香庵は、お茶の先生の住居を改装した小規模多機能事業所で、風情ある純和風の外観を保ち、町並みにしっとり溶け込み、古風な門をくぐると大きな松やもじが植えられた趣ある庭に季節を感じることができる。開所1年が経過し、まだ登録利用者数に達してはいないが、利用者や家族の状況に応じた柔軟なサービスの提供が家族の就労継続に繋がったり、利用者は居場所や培った家事能力等を発揮する場を得ている。男性利用者がエプロンをして調理に係わっている写真を目にした家族から「日頃からは想像できない」との感想があった。そして、先ごろ開始した学習療法で利用者の楽しみや気晴らしを支援し、生活のメリハリを支援する予定である。さらに、系列法人の在宅療養支援診療所との連携で、既往症の管理や適切な水分摂取を支援している利用者もあり、多様な医療・福祉サービスで法人の基本理念である「迅速・正確・気配りをモットーに自分や家族が利用したいと思える福祉サービスを提供する」を具現化している。市唯一の小規模多機能事業所であることから、近隣他市の同業者とネットワークを築き、サービスの向上に取り組んだり、運営推進会議を通じて小規模多機能サービスを地域に周知し、住みなれた地域での生活支援に全職員が一丸となって取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初回外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員の意見を管理者がまとめている。自己評価をすることで、日々のケアの確認や視点を考えるきっかけになっている。
重点項目③	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	重要事項説明書で運営推進会議の概要を説明し、守秘義務を明記した運営推進会議規則を整備している。市担当者、民生員、高齢者生きがいづくり支援センター世話人等の参加で2ヶ月毎に開催しているが、就労している家族が多く家族の参加がない。登録利用者数、サービス利用状況、行事や日頃のサービス内容を報告し、会議録を整備している。市担当者等の力添えで、事業所の取組み等が市広報紙に掲載された。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用時状況や連絡内容、家族からの連絡欄を設けた連絡帳を活用し、詳細に家族に報告している。訪問サービス連絡帳も整備し、朝食の準備や戸じまり、火元確認、電球の取り換え等や水分摂取量の確認が必要な利用者は自宅での摂取量を記載している。家族からは、受診状況や送迎の時間等についてやお礼が記載されている。玄関に掲示された顔写真付きの職員紹介は、職員と馴染みになりやすいと家族から好評である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地区自治会に加入し、回覧版が回ってきている。毎月事務所前を清掃したり、散歩の折に地域の方々や挨拶を交わしている。民生委員の定例会議で小規模多機能事業所の紹介や地域の介護家族の会から事業所見学の申し込みがある。介護や認知症教室をまず、利用者家族を対象に設け、回覧版を活用して近隣にもご案内することも検討している

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規程・重要事項説明書に地域密着型サービスの方針を明記し、「迅速・正確・気配りをモットーに自分や家族が利用したいと思える福祉サービスを提供する」を基本理念に掲げ、「利用者様・ご家族・地域の方々・スタッフを含め、気軽に寄り合う」よういきんしゃい余香庵」を独自の理念として、玄関に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念を朝礼で唱和し、理念の具現化に努めている。利用者や家族の要望や思いに沿った計画を作成し、在宅での生活の継続を支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区自治会に加入し、回覧版が回ってきている。毎月事業所前を清掃したり、散歩の折に地域の方々や挨拶を交わしている。民生委員の定例会議で小規模多機能事業所の紹介や地域の介護家族の会から事業所見学の申し込みがある。介護や認知症教室をまず家族を対象に設け、回覧版を活用してご案内することも検討している。	○	介護や認知症に関する相談をうけることを回覧版でご案内してはいかがでしょうか。また、子ども110番の受付も検討いただき、地域貢献から交流が広がることを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初回外部評価である。自己評価は職員の意見を管理者がまとめている。自己評価をすることで、日々のケアの確認や視点を考えるきっかけになっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	重要事項説明書で運営推進会議の概要を説明し、守秘義務を明記した運営推進会議規則を整備している。市担当者、民生員、高齢者生きがいづくり支援センター世話人等の参加で2ヶ月毎に開催しているが、就労している家族が多く家族の参加がない。登録利用者数、サービス利用状況、行事や日頃のサービス内容を報告し、会議録を整備している。市担当者等の力添えで、事業所の取組み等が市広報紙に掲載された。	○	運営推進会議は家族が意見を表出する機会でもあることから、家族が参加できる日時の検討をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設当初から、市担当者に情報の提供をうけている。市で唯一の小規模多機能事業所のため、内覧会に市担当者や地域包括支援センター職員等の見学があった。また入院した利用者の契約について相談している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性に関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	成年後見制度や地域福祉権利擁護事業のパンフレットを整備し、事業所内で研修を実施している。現在まで制度の利用者はいない。	○	利用者の権利擁護の一環として整備されたパンフレットを活用して、利用開始等随時、制度等の説明をお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用時状況や連絡内容、家族からの連絡欄を設けた連絡帳を活用し、詳細に家族に報告している。訪問サービス連絡帳も整備し、朝食の準備や戸じまり、火元確認、電球の取り換え等や水分摂取量の確認が必要な利用者は自宅での摂取量を記載している。家族からは、受診状況や送迎の時間等についてやお礼が記載されている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所や関係機関の意見苦情窓口を明記し、玄関に意見箱を設置している。連絡帳や送迎時を活用して、家族の要望を伺っているが、具体的な意見等はない。利用者への柔軟なサービス提供が家族の就労継続を支援しているが、意見を表出する場を確保するためにも、家族に行事の参加を促す予定である。玄関に掲示された顔写真つきの職員紹介は、職員と馴染みになりやすいと家族から好評である。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、離職者はいない。他市の同業者との情報交換や運営者のアドバイス等を活用しながら、日々のケアに取り組むことが、離職防止に繋がっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用には年齢や性の区別はなく、ハローワーク等の活用で職員を採用しているが、系列法人から異動した職員もいる。雇用契約書や就業規則を整備し、年次有給休暇の取得や定期健康診断を支援している。2階に職員の休息室を設けたり、系列法人全体で忘年会等を開催し、職員の労を労っている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	入職時、系列法人全体で基本理念を研修する際に、人権研修を実施している。運営規程や重要事項説明書に身体拘束について詳細に明記している。高齢者虐待防止マニュアルを整備し、研修を実施している。また、介護の心得を掲示し、職員に周知を図っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染症の予防、認知症、高齢者虐待防止、認知症等の研修計画を作成し、研修を実施している。また、系列法人のイントラネットが稼働し、法人主催の研修会等の情報を共有している。キャラバンメイトを受講した職員や認知症介護実践者研修を受講中の職員もいる。能力開発カードを活用して、各自が目標を設定しているが、進捗状況について運営者や管理者がスーパーバイズを行っている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福津市や宗像市の同業者でネットワークを発足し、定期的な学習会や情報交換を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、見学をお願いして。職員を担当制にすることで、馴染みながらのサービス利用を支援している。地域の介護支援事業者からの紹介の利用者もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	開始した学習療法で利用者の能力を再確認したり、食事の準備や後片付けの手際に驚くこともあり、人生の先輩として経験や知恵に学んでいる。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートに把握した職歴や生活歴、利用者の思い等を記載し、ADL等のできることでできないことを詳細にチェックしている。また、訪問診療や福祉用具の利用を支援している。毎日、利用者どゆったりと過ごすなかで、利用者の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向等を明記した居宅サービス計画書や小規模多機能介護計画書を作成しているが、居宅サービス計画書と小規模多機能計画書の課題や長期・短期目標が同じである。毎月居宅を訪問しモニタリングを実施している。毎月実施しているカンファレンスで介護計画について話し合ったり、担当者会議録を整備している。	○	居宅サービス計画書の保険給付サービスの1つが小規模多機能型居宅介護であることから、居宅サービス計画書の短期目標を達成する小規模多機能介護計画書の作成をお願いしたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月実施しているモニタリングで利用者や家族の意向を確認したり、担当職員から計画の確認事項に沿った利用状況の報告を受け、3ヶ月毎や随時介護計画を見直している。見直した居宅サービス計画書や小規模多機能介護計画書は利用者や家族に説明し、了承を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の家族の就労継続等を支援するために、通いサービスの送迎時間の調整や朝食・夕食の提供等を柔軟に支援している。利用者が行きたい場所にドライブするなど、利用者の願いや意向に応じた支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望のかかりつけ医が多く、受診は家族が同行しているが、連絡帳を活用し受診状況を把握している。看護職員が健康観察票に日々の健康状態を記録し、状況に応じてかかりつけ医に状態を報告している。系列法人の在宅療養支援診療所との連携で、既往症の管理や適切な水分摂取を支援している利用者もいる。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	在宅生活を支援するサービスとして、終末期は訪問看護やかかりつけ医との連携、系列法人の在宅療養支援診療所を活用する予定であるが、現在は終末期の利用者はいない。緊急時の医療処置を受けるあるいは受けないについて、利用開始時に意向を確認している。	○	小規模多機能型居宅介護として、重度化や終末期に向けた具体的な方針の整備を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営規程に個人情報の保護の取り扱いを明記し、個人情報を提供する者や利用目的、内容を詳細に明記した契約書や重要事項説明書を家族と取り交わしている。重要事項説明書は玄関に掲示している。プライバシー保護マニュアルを整備し、研修を実施している。利用者への声かけは丁寧で穏やかである。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行きたいと願う場所に同行することで、落ち着きを取り戻すのを支援したり、事業所に来たら、まず玄関の水撒き、清掃をする利用者もあり、意向を重視して支援している。また、在宅での朝食の準備は利用者の手順やこだわりに沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は系列法人の配食を活用しているが、小皿につき分けたり、食器洗い、食器拭きを楽しみにしている利用者もいる。職員は各自の弁当を同じテーブルで食べながら、好きなメニュー等を話題にしなが、食事の進み具合に声かけをしている。時には、庭で食事をしたり、男性利用者もエプロンがけで食事づくりを楽しんだりしている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば、毎日入浴できる。利用開始時は不馴れのため、入浴を拒否されることもあったが、現在は無い。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	玄関や廊下の清掃、食器洗いや食器拭き、生け花等の差し替え、野菜作りやガーデニング等を支援したり、地域の放生会やお祭りに出かけたり、図書館で借りたビデオを楽しんでいる。季節がらクリスマスツリーの貼り絵や粘土でグッズづくりをしたり、庭の柿をもぎ干し柿づくりをしたりしている。先ごろ開始した学習療法で利用者の楽しみや気晴らしを支援したり、生活にメリハリをつけるように支援する予定である。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	住宅地の一角の事業所なので、近隣を散歩しているが、近くのグリーンパークに出かけ散歩することもある。年間行事計画に沿って、花見等に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、玄関に鈴を設置し出入りに気配りをしている。24時間のサービスを提供するために、自宅以外の連絡先や出先を把握したり、事業所の開設時に近隣に理解や協力をお願いしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルや緊急連絡網を整備し、日中や夜間を想定した防火避難訓練を実施している。消火器を設置し、3日分のゼリー食を備蓄している。	○	事業所が密集した住宅地の中に開設していることや、開設時から自治会に加入されているので、地域ぐるみの防災訓練を地域自治会に提案されてはいいかでしょうか。看護職員等のマンパワーの地域貢献も併せて提案されることもお願いしたい。また、災害時の在宅支援も視野に入れ、飲料水の備蓄の検討もお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	訪問による食事支援や通いサービスで朝食や夕食の摂取を支援している。各利用者の食事摂取量を把握し、記録を整備している。既往症等で水分摂取量の把握が必要な利用者は、訪問で指示量の飲料水を用意し、摂取量を記録している。系列法人の栄養バランスやカロリーを考慮した配食を活用している。月1回等定期的に体重を測定しているが、過度の増減はない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お茶の先生の自宅を改装した事業所で、風情ある純和風の外観を保ち、町並みにしっとりと溶け込み、古風な門をくぐると大きな松やもみじが植えられた趣ある庭に季節を感じることができる。玄関から食堂が見えるが、ガラス戸があり、利用者の動向を見守りやすい。居間は段差はなく、利用者も職員も上履きを使用していない。食堂には2つの食卓やイスが置かれ、広縁のある居間はソファや机がおかれ、利用者はゆったりと過ごしている。トイレは2ヶ所設置され、手すりの設置や車いすも使用でき、臭いに配慮している。廊下と脱衣場はガラス戸で区切られ、浴室には個浴槽が設置されている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊りの部屋は和室と洋室があり、利用者の意向や状況で選択できる。泊りの利用者の衣類を入れる箱を用意したり、健康機器を預かり居心地のよい環境づくりをしている。個室入口には在室の有無の札を掲げ、利用者のプライバシーに配慮している。		